

つなぐ

Vol.72

2024.8月

2024年6月、

「WATCHMAN」を用いた左心耳閉鎖術(LAAC)が300症例を迎えた。心房細動患者にDOACが広く使用されるようになり、より多くの患者に抗凝固療法を行うことが可能となったが、依然抗凝固療法の対象から外れるケースも少なくない。出血を繰り返す、また抗凝固薬が原則禁忌となつている透析患者など、出血性のリスクがある患者に対して有効な治療法がこの「WATCHMAN」だ。

高齢化に伴い、心房細動の患者数は2010年の約80万人から2030年には100万人に増加すると見られ、心房細動がある人は、心房細動がない人に比べると脳卒中のリスクは約5倍になると言われている。こういったリスクについて、広く知ってほしいという思いから循環器内科と脳神経外科の医師たちは市民に向けて公開講座を定期的に開催し、啓発活動を行っている。地域の方々の健康意識を高め、健康寿命の延伸につなげるため、これからも科の垣根を超えて声を届け続ける。

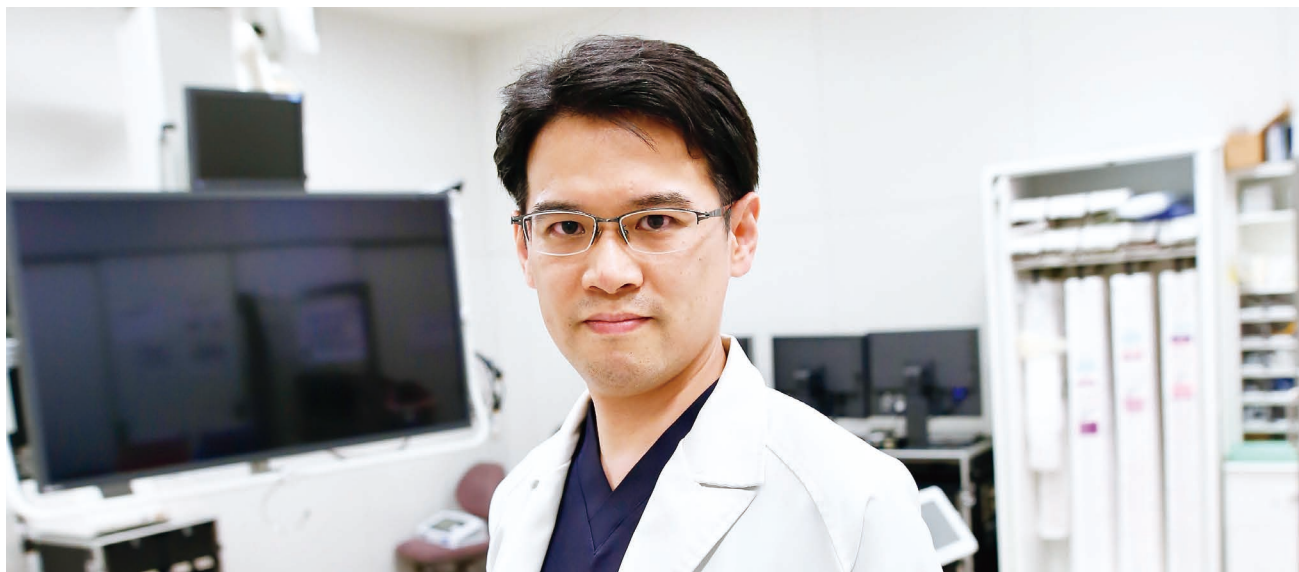




第80回

小倉循環器内科セミナー

2024年 9月11日(水) 18:00~18:30開催



高齢者心房細動での 左心耳閉鎖術の役割とは？

座長 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児

講師 小倉記念病院 循環器内科副部長 福永 真人

参加方法



ZOOMによる
WEB参加のみとなります！

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。

PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民
公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会
→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

